

「グローバル化ビジョン 2025-2028」

1. 「グローバル化ビジョン 2025-2028」の射程

世界ではグローバル化が進む中で、これまでに様々な変化があり、恩恵を受けるとともに、多くの課題が顕在化している。同時に、これらの課題を乗り越えるために、境界を越えて多様な主体の共創による様々なチャレンジが行われている。2023 年 11 月にユネスコ第 42 回総会で採択された「平和、人権及び持続可能な開発のための教育に関する勧告」は、グローバルシティズンシップ教育の推進やデジタル時代の教育等、これからの教育の射程を示している。

国内においては、「外に向かうグローバル化」だけでなく、「内なる国際化」が進んでおり、多文化共生社会の実現が重要な課題となっている。グローバル化が進む社会において、人々の多様性を尊重し、互いに受け入れ合うことは、社会の持続可能な発展に欠かせない。

こうした背景のもと、本学園は、ふくしマインドに根ざした実践的な教育や研究を活かし、グローバル社会における「Well-being for All」の実現に向けて、これからを見据えて行動することができる未来を担う人材の養成を進めていくとともに、そのために国内外でグローバルかつローカルな取り組みを推進していく。

2. 「グローバル化ビジョン 2025-2028」において大事にする視点

「グローバル化ビジョン 2025-2028」において、大事にする視点を示す。

【1】本学園らしさを活かしたアプローチ

本学園の強みである「ふくし」「多文化共生」「日本語教育」の分野を中心に据え、国内外の多様な主体と協働しながら、グローバルな視点を持った教育・研究・社会連携活動を推進する。これにより、「Well-being for All」の実現に寄与する。

【2】全学的な共修の推進／ともに学び合う（共修する）

本学園に集う日本人学生、留学生や外国にルーツを持つ学生等、幅広い背景をもつ人々が、互いの多様性を尊重し、受容し、また、多様性を活かしながら、ともに学び合う「共修」を推進する。

【3】「内なる国際化」と「外なる国際化」の融合

地域に根ざした多文化共生の取り組みと国際的課題の解決に貢献する活動を統合し、グローバルな視点とローカルな視点を両立・融合した活動を展開する。

【4】関係するすべてが主体的に参加する包括的な取り組み

学生・生徒、教職員、地域住民、国内外のパートナー等、関係するすべてが互いに多様性を尊重しつつ、主体的に参加し、社会の発展に寄与するための協働・共創を目指す。

【5】デジタル技術の活用

デジタル技術を活用して、物理的な制約を超えた新しい学びや交流の場を創出し、学園内外の繋がりを強化する。

【6】持続可能な推進体制の構築

安定した財源確保と柔軟な組織運営を通じて、次世代に引き継ぐことができる持続可能なグローバル化を実現する。

3. 「グローバル化ビジョン 2025-2028」の方向性

上記を踏まえて、以下では、(a)キャンパス・学校づくり、(b)教育、(c)研究、(d)社会連携の4つの観点から、以下の具体的な方向性を示す。

a. ともに学び合う（共修する）キャンパス・学校づくり

- ・グローバル社会における「Well-being for All」の実現に向けて、キャンパスの「内なる国際化」を進め、共修を推進する。
- ・「ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言」をしている本学園において、日本人、留学生や外国にルーツを持つ学生・生徒等が、互いの多様性を尊重し、受容し、また、多様性を活かしながら、ともに学び合う「共修」を、キャンパス・学校全体に広げる。
- ・自分にとって異なるものがあることを前提に、未来に向けて協働・共創するために、日常的にコミュニケーションや交流を進め、互いに文化や価値観をはじめ多様性を学んでいくという姿勢で、相互理解を促進していく。

b. グローバルマインドを持った人材の養成

- ・グローバル社会で求められる視点やスキルを体系的に習得できる教育プログラムを拡充する。
- ・グローバル社会で求められる多様な視点（俯瞰的な視点／自己を相対化する視点）から、異文化を理解する力、他者とコミュニケーションする力、議論・交渉する力等を醸成する。

- ・キャンパス・学校における共修を通して身につけたグローバルな視点、知識、経験等によって、多様な主体と互いの文化と価値観を尊重し、その多様性を活かした未来を共創する。
- ・海外への渡航に意欲的な学生・生徒向けだけでなく、渡航経験を有しない学生・生徒向けに、グローバル社会との接触（関わり）や異文化交流体験等のプログラムを提供し、幅広い層が、グローバル社会を見据えた学び、そして、グローバルマインドの醸成ができる環境を整える。

c. 本学らしい国際的な共同研究及び研究のグローバル化の推進

- ・グローバル社会における「Well-being for All」の実現に向けて、本学の強みを活かした本学らしい国際的な共同研究を含めた研究活動を推進し、本学のプレゼンスを高める。
- ・海外の「ふくし／Well-being」研究者が本学に眼差しを向けるとともに、本学から海外へ眼差しを向ける研究のグローバル化を推進する。
- ・ASEAN+3 等の国を想定して、協定締結機関の選定では、教育交流や本学らしい共同研究の推進に重点を置き、安定的かつ継続的な関係の構築を目指す。

d. 地域における共創的な取り組みの推進

- ・本学で行われてきた取り組みの積み重ねを踏まえ、Well-being for All の実現に向けて、地域において本学の強みを活かした本学らしい取り組みを推進する。
- ・自治体、企業、NPO/NGO、ボランティア団体、国際交流協会や国際的な機関等多様な主体と連携した地域の課題解決と多文化共生社会の実現に資する共創的な取り組みを推進する。

4. 「グローバル化ビジョン 2025-2028」の実現に向けて

- ・ビジョンに基づき共修、教育、研究、社会連携における取り組みを推進するために、必要な対応方策を検討する。中でも、学内における持続可能な体制整備が必要である。
- ・グローバルな取り組みの推進に向けて、学生・生徒に対する経済的な支援の強化と国内外の社会経済の状況の変化（賃金や物価の上昇や為替変動等）への適応方策の検討を進め、できるところから具体化していく。
- ・留学生モビリティ拡大に対する学生募集、入学後の学修や生活支援、就活支援までの一貫したエンロールメント・マネジメントや適切な留学生の在籍管理の推進と本学園の国際事業を担うセンター・機関等の設置を含めた体制整備が不可欠である。

5. 「グローバル化ビジョン 2025-2028」の実現に向けた施策

ビジョンを実現するために、(a)キャンパス・学校づくり、(b)教育、(c)研究、(d)社会連携の観点から具体的な施策を示す。

なお、「●」は、重点的に取り組む施策を示している。

a. とともに学び合う（共修する）キャンパス・学校づくり

a-1. キャンパス・学校ごとの取り組みの推進と発信

- 大学・学校の特色を活かした取り組みの推進と発信（大学・学校の学びの見える化）
- 大学・学校のグローバル化の推進に向けた取り組み方針とプランの作成
- 大学・学校の学びの特徴を活かした学環プログラムを通して大学・学校を超えた学びの推進

a-2. 共修の推進のための学修環境の整備

- 共修が進むためのピアサポートの仕組みの構築
- 文化的多様性等を尊重するキャンパスづくりのための必要な環境整備

a-3. 留学生等のエンロールメント・マネジメントの強化

- 留学生等の学生募集、入学後の学修や生活支援（経済支援を含む）、キャリア形成・就活支援までの一貫した取り組みの推進
- 留学生の学びのニーズと入学する学部の適切な選択ができるための情報発信や広報活動の推進
- 共修の推進に向けた留学生等への日本語教育プログラムの拡充

a-4. 留学生等の受け入れルートの多様化

- 留学生や外国にルーツを持つ生徒等の積極的な受け入れによるキャンパス内の多様性のある学びの促進

b. グローバルマインドを持った人材養成に向けた教育プログラムの拡充

b-1. 全学的な教育プログラムの拡充

- 学生・生徒のグローバルマインドの醸成に繋がる科目（グローバルマインド育成科目）の積極的な配置
- 言語系科目の拡充と実践的なプログラムの展開
 - ・英語力向上に意欲的な学生・生徒に対する教育プログラムの拡充
 - ・韓国語や中国語等近隣国の言語や文化を学ぶ機会の拡充
 - ・多言語（日本語、英語、留学生の母語他）を使いこなすための学びの機会の提供（日常生活から実践的なビジネススキルまで）
- 海外への学生・生徒の送り出し、海外からの学生・生徒の受け入れに向けた教育プログラムの拡充
 - ・学生・生徒の多様な国際経験を積む機会の創出に向けた協定締結大学・学校等との連携の強化

による海外留学（短中期）プログラムや短期交換プログラム等の交流や教育プログラムの拡充
・協定締結大学・学校等からの留学生の受け入れも想定した教育プログラム（英語による科目の充実他）の拡充

●多様な主体と連携した教育プログラムの拡充

・自治体、国内外の企業、NPO/NGO、ボランティア団体、社会福祉法人、国際交流協会や国際的な機関等と連携したフィールドワーク、インターシップ、サービ斯拉ーニング、ボランティア活動等の推進

●グローバルキャリアの形成につながるキャリア系科目の拡充

・国際的な機関やNGO、グローバル企業等と連携した海外における学生・生徒のインターンシップやボランティア等の実践プログラムの創出及び就職支援の強化

b-2. 大学（各学部）・学校の特色を活かしたグローバルな学びの推進及び大学・学校を超えた学びの推進

●大学・学校の教育目標を踏まえた、大学（各学部）・学校の特色やグローバルな視点を踏まえた学びの推進

例：大学：多文化ソーシャルワーク、多文化保育、多文化ファシリテーターの養成、日本語教師の養成、国際看護等

専門学校：介護福祉士国家試験対策

●大学・学校の学びの特徴を活かした学環プログラムを通して大学（各学部）・学校を超えた学びの推進

b-3. 日本人学生・生徒や留学生等の大学・学校を越えた交流や学びの機会の拡充

●協定締結機関との学生間交流の機会の拡充

●学生間の日常的な交流を促進し、異文化理解を深める国際交流イベントやワークショップ等の「共修」プログラムの実施

例：World Youth Meeting や Asian Student Exchange Program（ASEP）、ふくし AWARD 等英語でのプレゼンテーション機会の積極的な活用

専門学校と愛知県内の高校との異文化交流会

●留学生との交流を中心として様々な国の言語に触れる機会や言語を切り口に様々な文化や歴史に触れる多文化イベントの定期的な開催

●「グローバルラウンジ」「イングリッシュラウンジ」等の日常的な学びの空間の積極的な活用

b-4. デジタル技術を活用した境界を越えた交流や学びの機会の拡充

●デジタル技術を活用した交流や学びの機会の創出と継続的な関係づくりの促進

b-5. 高大接続による（付属高校と連携した）教育プログラムの拡充

例：World Youth Meeting や Asian Student Exchange Program（ASEP）、Global Meetup 等の取り組みの推進

c. 本学らしい国際的な共同研究及び研究のグローバル化の推進

c-1. 世界各地の大学／研究者との共同研究の推進と研究のグローバル化

- 大学院や研究所、研究センターとも連携したグローバルな視点での「ふくし／Well-being」の実現やグローバルな課題解決に資する国際的な共同研究の推進及び海外で活躍できる研究者の養成
- グローバルな視点で、国内外での研究成果の社会実装の推進
- 国際共同研究を支えるための資金調達の多様化

c-2. 協定締結を通じた取り組みの展開及びその拡充

- これまでの協定締結機関との取り組みの拡充
- 海外の大学・学校や教育・研究機関とのシンポジウムやイベントの実施等を通して、共同研究の推進及び協定締結機関の拡充
- ASEAN+3 等の国を想定して、世界各国の大学等との協定締結による学術交流・共同研究等を通じた本学のブランド力の向上

c-3. 国際会議等での発表や国際的な学術誌への投稿を通じた研究成果の発信

- 国際会議や学会、国際的な学術誌での発表や投稿を通じた研究成果の国際的な発信の強化及び研究成果の地域への還元

d. 地域における共創的な取り組みの推進

d-1. 多様な主体と連携した共創的な取り組みの推進

例：地域住民や自治体と連携した地域の課題解決プログラムの展開（PBL）やサービスラーニングの導入、ボランティアやインターシップの機会や学生・生徒が地域での課題解決に取り組むフィールドワーク等の拡充

d-2. 地域における多様な主体とのパートナーシップの構築

d-3. 多文化共生社会の実現に向けた学び合いや交流機会の拡充

例：多文化ワークショップや異文化体験イベントを通じた地域住民との交流機会や地域の日本語教育等の取り組みの強化